中校により 第 10 号 2020.2.1発行



ゆっくりのびる ゆったりのびる

理美容の先生との会話です。

今までに何十人もの若者が美容師・理容師を志して、お店に勤めてきたそうです。 多くが一人前になり、自分の店を持ったり、都市部の店に移ったりとのこと。 若者が一人前になるのはとてもうれしいですねぇと満面の笑顔で話されます。

「一人前になるのにどのくらいかかるんですか」と尋ねると 「器用でよく気がつき、数年で一人前になる美容師もいるし… 仕事を覚えるのに時間がかかり十数年かかる美容師もいます。 いろいろですね」

「統計をとっているわけではなく感覚なんだけど、時間がかかる 人間の方がいい美容師になっていることも多いんです。うまく いかなかったり、追い抜かれたりして、辛かっただろうけど、 幸せそうにいい仕事をしている。面白いですね」



とのこと。

休み時間の運動場でのひとコマ。

ひっかかり、ひっかかりしながら二重とびの練習している男の子が、 ビュンビュンとんでいる数人の子どもを少し離れて見ています。

「いいなぁ」とか「どうやったらうまくとべるのかなぁ」とか「あんな風になりたいな」 とか、そんなことを考えているのだろうなあ…と声をかけたくなります。

そんな光景をみていて

なわとび二重とびがすぐできた子ども! やっとできるようになった子ども! 練習してもなかなかできない子ども!



それぞれの子が その子にとって、きっと大切なところを通っている、大切なものを得ている最 中であるような気がしました。どの子もいい! 大丈夫! どのところも大切です!

最も寒さの厳しい時季となりますが、休み時間の運動場は子どもたちでいっぱいです。 その様子をみると何かあったかい気分になります。

校長藤永靖彦